

オーストラリア豆類事情調査結果の概要

飯田 道夫

はじめに

(公財)日本豆類協会では、平成8年から毎年、我が国の豆類輸入の円滑化、需給安定、生産振興、消費啓発に資するため、海外での豆類の生産・流通・消費の状況を現地で調査・情報収集して、我が国豆類関係者に提供する事業を実施している。

平成29年度は、オーストラリアを対象に、平成30年2月10日から18日の日程で実施した。(表1)

オーストラリアへの調査団派遣は、平成10年2月と24年2月に続くもので、前2回がニュー・サウス・ウェールズ (NSW) 州とクィーンズランド (QLD) 州の主に小豆産地を対象としたのに対して、今回はビクトリア (VIC) 州と南オーストラリア (SA) 州の主にソラ豆やヒヨコ豆等を調査した。

今回の訪問先は、オーストラリア連邦政府のオーストラリア貿易投資促進庁 (AUSTRADE) にアレンジしていただいたので、連邦政府、州政府、Pulse Australiaをはじめ、大学、豆類の生産者、流通業者、貿易業者など広範な関係者と面会し、豆類の生産圃場、流通調製施設、研究機関を訪問するなど、体系的かつ濃密な調査プログ

ラムとなった (表1)。

以下、オーストラリアでの豆類事情調査結果の概要を紹介する。

【調査団員】

(団長) 杉原康夫：雑穀輸入協議会。杉原産業株式会社取締役会長

(副団長) 湊 喜昭：全国穀物商協同組合連合会常務理事。湊商事株式会社代表取締役社長

(団員) 山田 純：全国フライビンズ組合連合会。株式会社松川屋代表取締役

(団員) 須川繁子：雑穀輸入協議会。株式会社カーギルジャパン東食ビジネスユニットベジタブル・シリアル本部 ナッツ・シリアル部

(団員) 小林信樹：ホクレン農業協同組合連合会農産事業本部農産部長

(団員) 飯田道夫：公益財団法人日本豆類協会常務理事

(添乗員) 斎藤 朗：農協観光首都圏支店

I. オーストラリアの豆類産業

1. 豆類の生産

南半球のオーストラリアでは、豆類は冬作物に分類されており、5月から7月 (秋頃) に播種をして、冬の間を育ち、9月から11月頃 (大部分は10月から12月の夏頃) に収穫する。

オーストラリアの豆類生産量は、概ね年

表1 調査日程

	月日	訪問地 (滞在地)	交通	スケジュール
1	2/10(土)	成田空港発	空路	・ 集合、シドニーへ出発
2	2/11(日)	NSW州シドニー	専用車	・ 市内スーパー等
3	2/12(月)	シドニー	専用車	・ 豆類産業セミナー ・ ビジネスミーティング ・ JETROシドニー訪問 ・ 公式夕食会
4	2/13(火)	VIC州 メルボルン ジーロン	空路 専用車	・ 豆類産業セミナー ・ ビジネスミーティング ・ 豆類貿易企業訪問 (ジーロン市) ・ 公式夕食会
5	2/14(水)	VIC州 ホーシャム	空路 専用車	・ 試験研究機関 ・ 豆類集出荷企業訪問
6	2/15(木)	SA州アデレード	空路 専用車	・ 豆類産業セミナー ・ ビジネスミーティング ・ 豆類集出荷企業訪問 ・ 公式夕食会
7	2/16(金)	SA州カンガルー島	空路 専用車	・ 豆類集出荷企業訪問 ・ 豆類生産農家訪問
8	2/17(土)	VIC州メルボルン	空路 専用車	・ 市内市場調査 ・ メルボルン空港発
9	2/18(日)	成田空港着	空路	・ 成田空港到着後、解散

間200～250万tで推移してきたが、2016年には降雨に恵まれて334万tと大幅に増加した(表2)。

主要な豆(major crop)の種類は、ヒヨコ豆(chick peas)、ソラ豆(faba/broad beans)、エンドウ(field peas)、レンズ豆(lentils)、ルー

ピン(lupins)の5種。

このほか、生産量の少ない、ニッチ市場向けの少数豆類(minor crop)として、緑豆(mungbeans)、小豆(adzuki beans)、インゲン豆(navy beans)、ササゲ(cow peas)、キマメ(pigeon peas)など数多くある。

表2 オーストラリアの豆類生産量 (単位:千t)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
ヒヨコ豆	813	629	517	1,013	1,280	1,181
ソラ豆	369	377	290	372	423	305
エンドウ	320	342	273	213	300	279
レンズ豆	189	253	232	258	409	539
ルーピン	464	625	565	632	932	513
合計	2,155	2,226	1,877	2,488	3,344	2,817

(資料)Pulse Australia

表3 州別の豆類生産量 (2015-16年) (単位: 千t)

	NSW	VIC	QLD	SA	WA	豆類合計
ヒヨコ豆	398	13	252	11	4	677
エンドウ	73	21	0	82	29	205
ソラ豆	143	57	11	84	4	301
レンズ豆	7	82	84	137	53	386
ルーピン	111	31	0	53	457	652
計	841	157	484	386	498	2,373

(資料) ABARES & Pulse Australia

オーストラリアでは州ごとに特色のある豆類が生産され、産地が形成されている(表3)。

降雨量が比較的安定しているNSW州、VIC州、SA州では多様な豆類が生産されている。他方、QLD州ではヒヨコ豆、西オーストラリア州ではルーピンが大半を占める。なお、タスマニア州と北部準州では、豆類の生産はほとんどない。

2. 豆類の貿易

オーストラリアの豆類生産量(2014年)は世界第9位で、世界全体の概ね3%程度を占めている(表4)。

オーストラリアで生産された豆類の大半は輸出されており、輸出量はカナダに次いで、世界第2位となっている(表5)。

輸出している豆の種類は、多岐にわたるが、最近ではヒヨコ豆の輸出量が大幅に増えている。

オーストラリアの豆類の主な輸出先国は、インド等南アジアや中東諸国である。

なお、インド政府は、2017年12月21日に、ヒヨコ豆とレンズ豆の輸入に対して30%の関税を課すと公表し、直ちに実行した。これにより大きな影響を受けるオーストラリアの豆類産業界は、政府とともにインド側と交渉を行っている。

表4 世界の豆類生産量 (単位: 千t)

年	2010	2014
インド	17,236	19,980
カナダ	5,347	5,824
ミャンマー	5,022	4,991
中国	3,891	4,514
ブラジル	3,712	3,306
エチオピア	1,966	2,614
米国	2,595	2,403
ロシア	1,428	2,316
オーストラリアA	2,144	2,247
世界合計B	70,631	77,599
シェアA/B	3.0	2.9

(資料) FAOSTAT

表5 豆類の主要輸出国 (単位: 千t)

年	2010	2013
カナダ	4,307	4,994
オーストラリアA	1,312	2,168
ミャンマー	995	1,388
米国	1,231	1,199
中国	1,002	843
世界合計B	12,435	13,988
シェアA/B	10.60%	15.50%

(資料) FAOSTAT

表6 オーストラリアの豆類の輸出量 (単位：千t)

年	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17
豆類計	1,437	1,992	2,168	1,786	1,719	2,092	3,698
ヒヨコ豆	409	653	852	562	674	1,140	1,970
エンドウ	254	248	208	155	179	143	225
ルーピン	289	316	416	298	270	220	414

(資料) ABARES & Pulse Australia Limited. (注) 2016-17年はABARES見直し

表7 オーストラリアの豆類の主要輸出先国 (2014-15年) (単位：千t)

	ヒヨコ豆		ソラ豆		レンズ豆		エンドウ	
	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
1	インド	248	エジプト	210	スリランカ	74	インド	84
2	バングラディシュ	221	サウジアラビア	33	バングラディシュ	59	マレーシア	17
3	パキスタン	105	U A E	18	インド	24	スリランカ	11
	合計	679	合計	301	合計	212	合計	132

(資料) ABARES & Pulse Australia Limited.

3. 日本のオーストラリアからの豆類輸入

日本のオーストラリアからの雑豆輸入量は、近年は年間約2,000 t 前後で推移しており、種類別では、ソラ豆が1,000 t 程度と半分を占め、エンドウ、レンズ豆、ヒヨコ豆の順 (表8)。

日本の雑豆輸入量の中でオーストラリア産のシェアは3%程度だが、ソラ豆は2割前後を占めている。

2016年からレンズ豆とヒヨコ豆、2017年はエンドウが大幅に増えた。

4. 日本とオーストラリアの経済連携

(1) 日豪経済連携協定

2015年1月15日に発効した日豪経済連携協定 (JAPEA) により、大半の品目で、関税の即時撤廃又は段階的な削減が行われている。これにより、ヒヨコ豆とレンズ豆は8.5%から0%とされた。

表8 日本のオーストラリアからの雑豆輸入量 (単位：千t)

	年	2011	2014	2017
	小豆 adzuki	計	25,101	26,003
AUS		19	160	81
%		0.1	0.6	0.4
ソラ豆 horse & broad beans	計	5,601	5,389	4,928
	AUS	914	1,037	1,022
	%	16.3	19.2	20.7
エンドウ peas	計	12,574	13,313	17,543
	AUS	610	1,167	1,215
	%	4.9	8.8	6.9
ヒヨコ豆 chick peas	計	1,259	1,700	1,954
	AUS	35	70	149
	%	2.8	4.1	7.6
レンズ豆 lentils	計	274	421	728
	AUS	19	23	160
	%	6.9	5.5	22
雑豆類計	合計	83,213	79,751	75,887
	AUS	1,597	2,457	2,628
	%	1.9	3.1	3.5

(資料) 財務省「日本貿易統計」

(2) TPP11協定（環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定）

TPPは、アジア太平洋地域においてモノの関税だけでなく、サービス、投資の自由化を進め、さらには知的財産、金融サービス、電子商取引、国有企業の規律など、幅広い分野で21世紀型のルールを構築する経済連携協定。

2016年2月に12か国がTPP協定に署名したが、2017年1月に米国が離脱したため、2018年3月に、日本、オーストラリア、カナダを含む11か国がTPP11協定の署名を行った。

なお、2017年12月農林水産省公表「農林水産物の生産額への影響について（TPP11）」の参考資料によると、小豆及びいんげんについては、枠内関税は即時撤廃するものの枠外関税を維持したため、TPP11参加国以外からの輸入がTPP11参加国からの輸入への切り替わりが生じると試算されている。

5. オーストラリアの豆類の消費

FAO統計により豆類の一人当たり年間

表9 豆類の一人当たり年間消費量（単位：kg）

年	1992	2002	2013
ブラジル	15.95	16.25	16.45
インド	11.37	11.59	14.4
カナダ	6.97	7.42	12.1
アメリカ	3.93	3.85	4.23
イギリス	3.84	4.69	3.45
フランス	2.14	1.97	1.85
日本	2.41	2.04	1.55
中国	1.11	1.47	1.35
オーストラリア	2.48	1.25	1.3

（資料）FAOSTAT

（注）「豆類」は、Beans, Peas, Pulses, Other and Productsの合計

消費量をみると、ブラジル、インド、カナダなどは年間10kgを超えているが、日本やオーストラリアは2kgにも満たない（表9）。

近年、オーストラリア国内では、豆類を1日20g（年間7.3kg相当）摂取することで慢性病や早期死亡のリスクを7～8%減らすことができるとPRされるなど、健康ブームに乗って豆の栄養素が注目されてきており、レンズ豆、エンドウなど豆類の消費量は伸びてきている。

欧州と同様、オーストラリア国内でも、豆類、ナッツ類、植物など非動物由来の原料で製造する代替肉の消費が伸びている。

II. 訪問先での調査概要

2月11日（日）シドニー

シドニー市内中心にある大手スーパーCOLESで豆製品を探した。多くの生鮮食品、加工食品が売られている中に、いんげん豆のトマト煮缶詰やカップがたくさんあった。一方、乾燥豆は見られなかった。



2月12日（月）シドニー

【AUSTRALIA シドニー本部での会合】

9時15分、AUSTRALIAシドニー事務所を訪問した。

午前中の産業セミナーでは、Pulse AustraliaのGoddard会長、AEGICのQuail GM等か

らオーストラリアの豆類の生産、流通、貿易、消費、研究開発に関する説明が行われた後、当調査団と意見交換を行った。

この中で、当調査団の山田氏より、オーストラリア産ソラ豆を原料に、日本国内で製造販売しているカレービーンズを紹介した。

午後のビジネスミーティングでは、穀物・豆類輸出企業3社から、事業内容や取扱商品の説明が行われ、意見交換した。

1. 冒頭挨拶

Ms Elena Kirrilov (Austrade State Director NSW/ACT)
杉原団長



2. 産業セミナー

- ①Australian Pulse Industry
(Mr Nick Goddard:Pulse Australia CEO)
- ②Australian Pulses
(Dr Ken Quail : Australian Export Grain Industry Centre, General Manager)
- ③Mr Pat O'Shannassy: Grain Trade Australia, CEO

④日本の豆類市場について
(飯田 日本豆類協会常務理事)
(山田 全国フライビーンズ連合会理事長代理)



- ⑤Grains & Legumes (Ms Alexandra Locke: Nutrition Council,Marketing Manager)
- ⑥Legumes-for Sustainable Agriculture (A/Prof. Brent Kaiser : University of Sydney)



3. ビジネス・ミーティング

- ・ Grain Corp
- ・ Standard Commodities
- ・ Robinson Grains

【JETROシドニー事務所訪問】

午後3時、日本貿易振興機構（JETRO）シドニー事務所を訪問し、安東事業推進部長等から「オーストラリアにおける雑豆」について説明を受け、意見交換した。

2月13日（火）メルボルン

午前、メルボルンに移動し、AUSTRADEメルボルン事務所を訪れた。

【AUSTRADEメルボルン事務所での会合】

12時から、ビクトリア州の豆類関係者と会合を行った。

ビクトリア州政府から、州内の穀物、豆類産業の説明を受けた。

その後、穀物・豆類輸出企業3社から事業内容、取扱商品などの説明を受け、意見交換した。



1. 冒頭挨拶

Ms Nicole Andrews (Trade Victoria Regional Specialist North East Asia)
杉原団長

2. 産業セミナー

・ VICTORIAN GRAINS INDUSTRY
(Mr Brendan Larkin : Victoria Gov)

3. ビジネス・ミーティング

・ Graincore Grains
・ Peters Commodities
・ Ward McKenzie

【企業訪問】

○Unigrain Pty.Ltd

メルボルン市に隣接する港湾都市ジーロンにあるUnigrain 社の本社事務所を訪問した。

同社は、VIC州とWA州等でオーツ麦など穀類約10万t、豆類（エンドウ、レンズ豆等）約3万tを扱っており、主にスリランカ、中近東、台湾等に輸出している。

小豆は台湾向けにクォータの中で年間800tを契約栽培している。小豆はNSW州で栽培しており、4月に収穫、洗浄して輸出している。価格は1250米ドル/t。

日本向けには小さいソラ豆（faba）をせんべい向けに出している。

北の地域では大豆、小豆、南の地域ではfabaを作っている。WA州では、豆はほとんど栽培されていない。



ヒヨコ豆は、中東に出しており、中東の業者は一括でバルクで引き取ってくれる。この3年間はいい価格で出している。生産者は量を出したいので、小ぶりのものが増えて、大きめのkabuli種は減っている。

大きいfabaのスプリットはやるが、broad（ソラ豆）をスプリットすると、歩留まりが悪い。グレードだけして選別する。fabaとbroadは形状が違う。そのまま出すので、加工は日本でやってもらいたい。



2月14日（水）ホーシャム

朝、メルボルンから北西へ約300kmに位置するビクトリア州西部のウィメラ地域の中心市ホーシャムに移動した。当市は、人口16,395人（2016年）、年間降雨量446mmで、小麦・羊毛が中心産業。オーストラリアの豆類生産地帯の中心にあり、豆類関係施設と試験研究機関が立地している。

【Grains Innovation Parkへの訪問】

Grains Innovation ParkはVIC州の穀物・



豆類の試験研究機関で、160名の職員が農業・生物関係の試験研究のほか、環境、森林火災の消防も担当している。

エンドウ、レンズ豆の品種改良を塩分耐性、ホウ素耐性、害虫と病害への対応等の観点から進めている。気候変動の作物生産への影響研究、豆の評価選別機械の開発、農家への配布用種子の育成などに取り組んでいる。



オーストラリア穀物遺伝子バンクは世界各地から2000品種を集めて、 -20°C で長期保存している。



【企業訪問】

○BP Seeds社

家族経営で、豆類の生産と加工をやっている。今年の収穫は終わった。国内生産者のレンズ豆、ヒヨコ豆を集荷し、選別、マシンドレス、ふるい、自重選別、石抜きを行って99.9%の品質保証、HACCP認定を行っている。



○WIMPAK社

1999年に生産者が集まって設立した。レンズ豆、ヒヨコ豆、エンドウが主で、当地に7500t、別の場所に7000tの貯蔵施設がある。付加価値をつけるため、豆のクリーニング、パッキングをやっている。

2017年の出荷量は5.6万t。選別ラインは一つだが、2年前に選別機械を更新して処理能力が向上した。さらに敷地18haを購入して850万ドル規模の投資をして貯蔵処理能力を向上する。現在、DCTを通して輸出しているが、将来は直接輸出も検討している。



○JK Milling社

当社は、JKインターナショナル傘下で、ブリスベンが拠点。世界各地の生産者から豆、油糧、砂糖、トウモロコシを買っている。オーストラリア最大の豆の輸出会社。

オーストラリアで豆を農家から購入して、コンテナ、バッグで輸出し、エンドユー

ザーに届けるところまでやっている。自社港湾施設でバラ積み船もある。アデレード、フリーマントル、シドニー、メルボルンではコンテナ積みする。

ウィメラ地域では、ソラ豆、ヒヨコ豆、エンドウ、レンズ豆を扱っている。ヒヨコ豆の輸出先は、インド亜大陸、中東などだが、インドの関税問題で価格は下火になっている。ソラ豆はホーシャムから150km圏内で生産している。



2月15日（木）アデレード

午前中、アデレードに移動し、AUSTRADEアデレード事務所を訪れた。

【AUSTRADE アデレード事務所での会合】

11時半から、南オーストラリア州関係者との会合を行った。



1. 冒頭挨拶

Mr Patrick Kearins (Austrade State Director for SA)
杉原団長

2. 産業セミナー

・南オーストラリア州の穀物について (Mr Dave Lewis : Gov. of SA)

・Pulse research and breeding (Dr Jeff Paul : Univ of Adelaide)

3. ビジネス・ミーティング

・Australian Grain Export Pty.Ltd.

産業セミナーでは、州政府から穀物、豆類産業の状況、アデレード大学のJeff Paul博士からソラ豆の品種開発に関する説明があった。

Paul博士は、国内での豆の品種改良は、fabaはアデレード、エンドウはホーシャム、ヒヨコ豆はタムワースで担当チームを作って取り組んでいる。fabaの品種改良は、これまでエジプト向けに行ってきたが、量的安定性があれば他市場向けに品種改良を行うことも可能であると説明した。

その後、穀物輸出企業1社から事業内容、取扱商品などの説明を受け、意見交換した。

【企業訪問】

○Kangaroo Island Pure Grain (KIPG)

アデレード市内オズボーンにある洗浄、



選別、包装工場で、カンガルー島の broadbeansを中心に、ヒヨコ豆などを扱っている。今は、カノーラ、小麦、大麦を出している。バルク製品はそのまま出すが、洗浄システムがあるので、バルク以外でも扱う。入荷したコンテナから、サイロに貯めて、洗浄して、ふるいで選別する。検査員のチェックを受けて、パッキングして、コンテナに積む。バルクサイロは6~7日で外へ出す。

○Viterra Outer Harbor Bulk Grain Export Terminal

アデレード港に2010年に完成した最新積出施設。農家から穀物業者が集荷した穀物をトラック、貨車で入荷し、直接、船積みする。サイロからコンベヤで1km運び、1時間で2千t積む。8千tサイロ8基と小さいサイロが2基ある。メンテナンスは自動洗浄機で行う。



品質管理は、農家受取、保管、搬入時、搬出時など最低5回はチェック（コンタミ、不純物、病原菌、送出先の基準）する。サンプル検査は規則により33.33tから3.33tをチェックする。オーストラリア輸出用スタンダードと日本の輸入用スタンダードにあっているか、難しい方をやっている。500tごとにさらに詳しい検査を製品ごとにする。

2月16日（金）カンガルー島

朝、アデレード空港から40分ほどでカンガルー島に着いた。

カンガルー島は、SA州の州都アデレードの南西112kmにあり面積は4405km²（沖縄島の3.6倍）。農業と観光が主。

【企業訪問】

○Kangaroo Island Pure Grain (KIPG)

KIPG社は2009年にカンガルー島で生産される穀物、油糧種子、豆類を販売するために生産者達によって設立された。

サイロは、2011年に兼松の資本出資を受けて建設した。



1袋250t収容の袋サイロ（エアバッグ）をSA州で初めて採用した。こちらの方が、豆へのダメージが小さい。



農家は30軒から16軒に減って、規模拡大している。1農場1600haが普通で4000haの農場もある。小さい所は400ha。90%の農家から買い入れており、小麦1200t、カ

ノーラ6000t、broadbeans（大粒ソラ豆）が6000t。

broadbeansの生産地は、気温が低く春に20～30mmの降雨があるカンガルー島かメルボルンの南側に限られている。4月に種まきして、その後に雨が降って、12月～1月に収穫する。島では5年前まではbroadbeansを作っていなかったが、作物ローテーションで土壌にいいので導入した。オーストラリア全体でのbroadbeans生産量は2万tで、このうちカンガルー島では通常6000tだが、去年は春に湿気が少なかったので、3000tに減った。

ここの施設でbroadbeansを11mmで選別する。11mm以下のものは5%くらいあり、羊のエサになる。

農家には大きなものを作るように奨励しており、今は14mm以上のものが採れるようになった。5年間で生産量が増えたので、オズボーン（アデレード市）にクリーニング機械を導入した。

【農場訪問】

Bell氏の農場を訪問した。Bell氏は家族5人で小麦、カノーラに加えて、4年前からソラ豆（fabaとbroadで100～150t）を栽培している。KIPGの役員も兼ねる。

fabaとbroadは開花時期が異なり、fabaの方が当地の気候、降水期にあっている。受粉時の気温はbroadでは20℃が必要だが、fabaの方が低くてもできる。fabaは4～6t/ha、broadは2～2.5t/haの単収でbroadはまだリスク。



2月17日（土）メルボルン

最終日に、メルボルンに戻って、市内の主要マーケットでの豆類の販売状況を調べた。

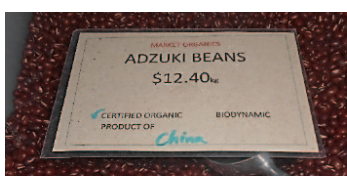
○クィーン・ビクトリア・マーケット

当地は、メルボルン市中心部の北側にある最も有名なマーケットで、生鮮食料品・加工食品から衣料、雑貨まで幅広く売られており、フードコート、カフェもある。オーストラリア国内の食料品は、一般に日本と比べて高く、ロットも大きいですが、ここは安いと評判で、多くの市民や観光客が集まっている。



豆の種類も国内産と輸入物も豊富で、缶詰だけでなく、シドニーのスーパーマーケットにはなかった乾燥豆の小袋や量り売りもあった。袋売りの1kgあたり価格は、オーストラリア産ソラ豆（ブロードビーン

ズ) 7.95ドル、カナダ産レッドキドニー (有機認証) 8.6ドルであった。量り売り (1kg) 価格は、エンドウ7ドル、ヒヨコ豆14.4ドル、レンズ豆12.8ドル、小豆 (中国産) 12.4ドル。(2018年2月為替1ドル=85円)



○南メルボルン・マーケット

メルボルン中心部の南にある南メルボルン・マーケットは、規模はそれほど大きくないが、生鮮食料品や加工食品などを中心に小ぎれいな店が並んでいる。

豆の缶詰のほか、国内産とカナダ等からの輸入された乾燥豆が売られていた。



Ⅲ. 最後に

オーストラリアの豆類産業は、広大な農場で大型機械を駆使してヒヨコ豆、レンズ

豆、エンドウ、ソラ豆等を生産し、インド亜大陸、中東等に年間200万tも輸出しているが、このうち日本への輸出量は2000tで0.1%を占めるにすぎない。

これは、日本における雑豆の主用途である和菓子・製餡用に適した品質の豆 (特に小豆)の生産がオーストラリアでは難しく、また、オーストラリアにとってはニッチ市場である日本向けに特別の品種開発や豆の選別調製等に取り組むのは難しいといった事情があると考えられる。

しかし、今後、こうした状況は変化する可能性がある。

需要側 (日本) では、日本、オーストラリアなどが参加するTPP11の発効による域内関税の撤廃、食料品に関する原料原産地表示制度の改正に伴い、オーストラリア産雑豆へのインセンティブは高まるであろう。

供給側 (オーストラリア) では、インドのヒヨコ豆関税引上等新興国リスクに直面する中で、長期的に信頼できる日本市場を開拓する期待が高まっている。

今後、豆類業界が発展していくためには、消費者の豆の認知度を高め、豆の健康面への効果、料理法等を普及するとともに、豆パウダー等新規用途開発も含め、需要を拡大していくことが必要である。

日本とオーストラリアの豆類業界は、引き続き、情報交換、意見交換を進め、協力関係を深めていくことが重要と考える。

最後に、AUSTRALIAはじめ、各州において懇切、丁寧に対応していただいたオーストラリアの皆様方に感謝いたします。